

# 農大でビジネスを学ぶ



東京農業大学 国際食料情報学部

**国際バイオビジネス学科**

Dept. of Agribusiness Management

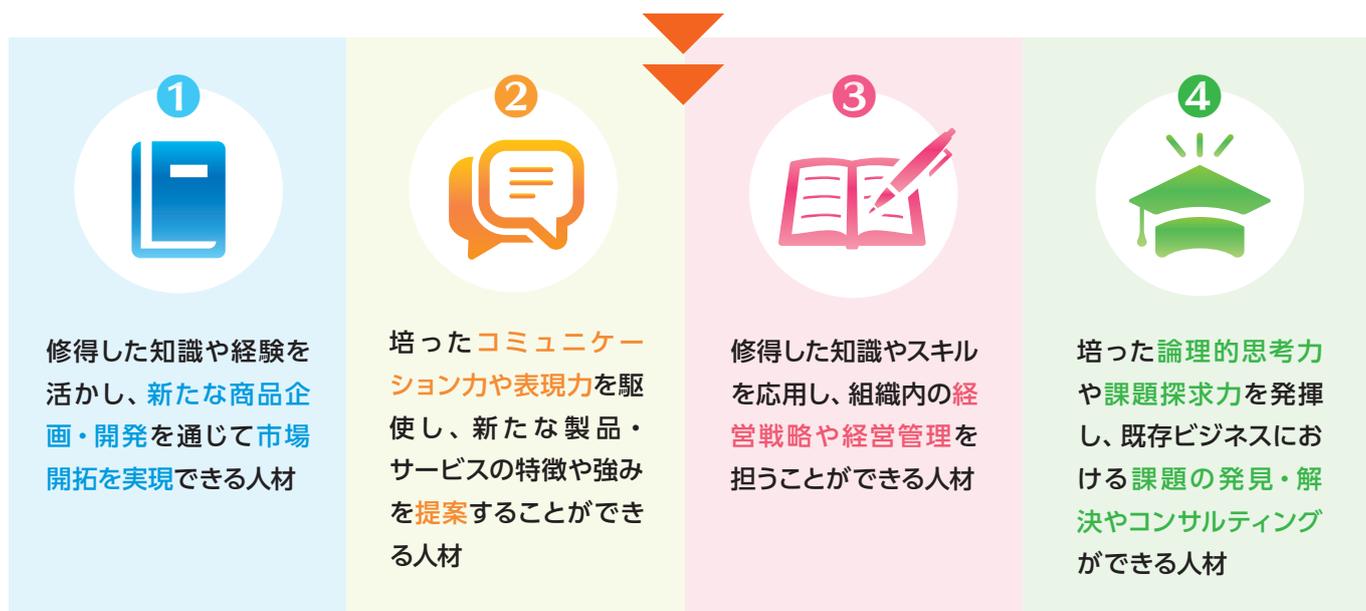


学科長 畑中勝守

世界の穀物生産量は、発展途上国の人口増・所得増により堅調に増加し、2000～2020年の20年間でおよそ1.5倍になりました。このため、今後も増加傾向が続けば食料危機は起きないとする楽観論があります。しかし一方で、世界の穀物生産の70%は小規模農家が担いその半数が貧農です。つまり、生産量は増加していても持続性は不安定な状況であり、農業経営の改善が解決手段の一つと期待されています。国際バイオビジネス学科は、政治・社会・経営・自然災害などのリスクに立ち向かい、世界の食料安全保障に貢献するための学問を日々続けています。特に、他大学に先んじてマーケティングと経営戦略を学びの柱の一つに据え、データサイエンスやAIなどの先端技術も導入しています。国内外の食料問題にチャレンジする国際バイオビジネス学科と一緒に学んでいきましょう。

## このような人を育てます

国際バイオビジネス学科では、国際的な感覚を持った農業・食品系企業の経営幹部や経営の中核を担う、食料の生産・加工・流通・販売にかかわる経営管理やマーケティング、情報処理などの知識を身に付けた人材の養成を目標としています。具体的には、以下の項目を実現できる人材の養成を目指しています。



## このような人を求めています

1 入学後の修学に必要な**基礎学力**（高等学校で履修する国語、数学、外国語、社会、理科など）を有している人

2 **食料の生産・加工・流通・販売**にかかる経営管理、マーケティング、情報処理等に関心を持ち、農や食の分野に積極的に貢献する**意欲・態度**を有している人

3 物事を**多面的かつ論理的に考察**ことができ、自分の考えを**的確に表現し伝える**ことができる人

演習科目の紹介

## コンビニスイーツを通じて商品企画を学ぶ

### 商品アイデアをグループで検討

みなさんにとって身近な商品の一つが「コンビニスイーツ」ではないでしょうか。

3年次の選択必修科目である「商品企画演習」では、前半で「コンビニスイーツ」、後半で「農業の6次産業化」を題材として学んでいます。

新商品の開発プロセスではアイデアが非常に重要です。コンビニを訪れる多様な顧客のなかからターゲットを誰にするか？それに見合う価格帯は？どんなパッケージがよいか？そうしたアイデアをグループで議論しながら練っていきます。



マーケティング研究室  
半杭真一 准教授

### 「ケースメソッド」の導入

ビジネススクールで用いられる教育手法もであるのが「ケースメソッド」です。これは、実際の経営を事例として、その問題を分析・討議しながら解決策を導くものであり、教育の目的は、実践的能力の育成です。

「コンビニスイーツ」という学生にとっても身近な「ケース」を用いて、実践的に問題解決や意思決定を学ぶのが「商品企画演習」です。

商品企画演習は、それまで講義で学んできたマーケティングや会計、経営戦略といった知識を総動員して取り組まなくてはなりませんし、経営の外部環境を知るためのデータ分析も重要な要素です。グループで討議をしますので、コミュニケーション能力や議論をリードする力、効果的なプレゼンテーション技術も問われます。講義形式でなく、学生が顔を突き合わせて、ホワイトボードや付箋を使いながら自分たちなりの解決策を見出していくプロセスは、国際バイオビジネス学科のカリキュラムにおいてもエキサイティングなものの一つです。



グループでの商品企画



学科OBでゲスト講師の板倉氏  
(セブンイレブンジャパン)



板倉氏からアイデアにコメントをもらう

## ゼミプロジェクト紹介①

# ICT・AIで国際貢献



経営情報研究室  
サフィル ラマドナ 助教

サフィルゼミでは、ICTを利用したスマート農業・漁業のための研究を進めています。インドネシアの水産資源管理に関する国際プロジェクトに参加しており、ICTによる環境情報の収集、漁業資源管理情報の収集と分析、さらに衛星リモートセンシングによる農地からの表土流出と海水汚染の影響分析などを行なっています。それぞれの個別課題の成果を集約した意思決定支援システム(Decision Support System)を構築する研究に取り組んでいます。

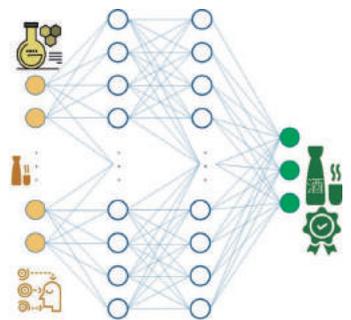
味覚は個人の嗜好に左右され、味覚を推定するための研究手法としてデータサイエンスの応用が期待されています。サフィルゼミでは、AIによる食品評価のための研究も行っています。醸造科学科との共同研究を通じて、「日本酒の品質や嗜好」を推定する機械学習の研究を行っています。具体的には日本酒の成分分析結果と感応評価のデータを用いてAIによる評価の推定を研究しています。将来的には、AIによる偽造ラベル防止のための酒類の自動分類につなげていきたいと考えています。経営情報研究室には多くの留学生が在籍しており、日本人も含めた英語による授業・ゼミを開くなどし、留学生と日本人学生の交流を積極的に進めています。



魚介養殖施設にて環境情報収集のためのセンサーネットワークの設置



人工衛星データとグランドトゥルース(現地調査)による土地被覆分類の結果



AIによる日本酒の品質や嗜好の推定

## ゼミプロジェクト紹介②

# 大豆は地球を救うー国産大豆ミートプロジェクト



経営戦略研究室  
渋谷往男 教授

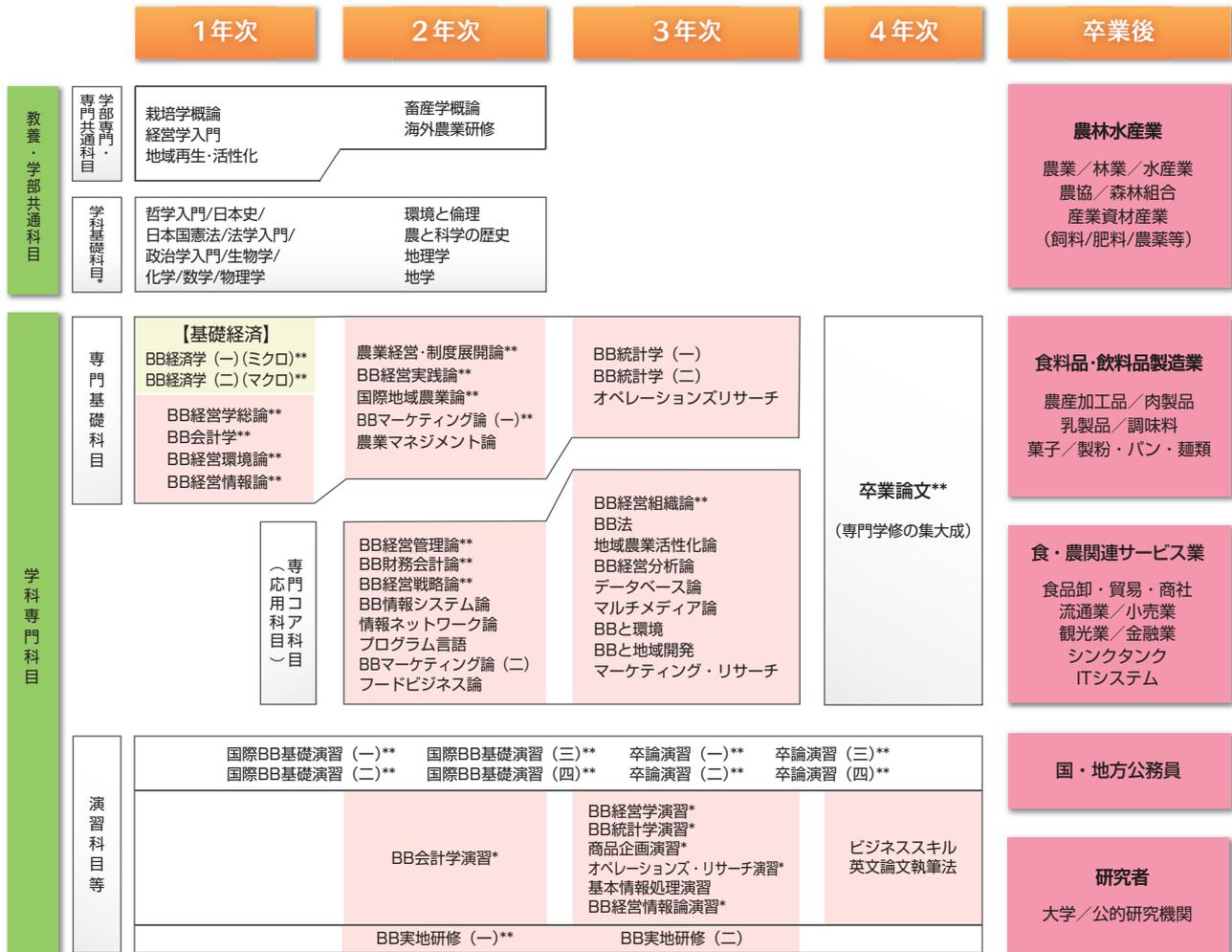
渋谷ゼミでは毎年1つのテーマを決めて全員で研究し、本学の学園祭である「収穫祭」で研究成果を発表しています。2019年度は2回目の学長賞を受賞しました。2021年度は「大豆ミート」を取り上げます。みなさんお肉は好きだと思います。しかし、食肉を生産するためには鶏肉で4倍、豚肉で7倍、牛肉では11倍の穀物量が必要とされており、世界的な穀物需要増加の一因となっています。また、食肉生産は大量の水を使うことから環境負荷も懸念されます。今後世界的な経済発展と人口増加によって食肉需要が高まることが予想され、穀物需要のさらなる拡大と地球環境への負荷が懸念されます。

そこで、タンパク質を豊富に含む大豆に注目が集まっています。大豆を加工して食肉に代わる食品にしたものが「大豆ミート」です。近年技術開発が進み、本物のお肉と変わらないような食感が出せるようになってきました。この大豆ミートを国産大豆で生産し、肉類の過度な消費を抑制するとともに6次産業化も実現しようというのがこのプロジェクトのねらいです。この成果は2021年10月の「収穫祭」で発表します。みなさんは是非私たちの発表をご覧ください。



# 2021年度 国際バイオビジネス学科のカリキュラム体系図

\*\*印は必修科目、\*印は選択必修科目



## 過去5カ年 (2017～2021年度) の学科卒業生の主な進路

- 食品・飲料製造** | ロッテ、キューピー、エバラ食品工業、東ハト、山崎製パン、敷島製パン、J-オイルミルズ、雪印メグミルク、カバヤ食品、UHA味覚糖、ブルボン、紀文食品、永谷園、ブルドックソース、エスビー食品、シマダヤ、中村屋、高梨乳業、UCC上島珈琲、伊藤園、JT
- 食品商社・卸業** | 三菱食品、三井食品、伊藤忠食品、日本食研HD、国分グループ、日本アークセス、全農パールライス、東京青果、東京荏原青果、築地魚市場
- 流通** | イオンリテール、イトーヨーカ堂、小田急百貨店、大丸松坂屋百貨店、サミット、マルエツ、東急ストア、成城石井、セブン-イレブン・ジャパン、ローソン、ニトリ、ファーストリテイリング、マツモトキヨシ、日本生協連
- 外食** | ゼンショーHD、ロイヤルHDグループ、サイゼリヤ、ドトールコーヒー
- 農業資材・種苗** | 関東甲信クボタ、井関農機、サカタのタネ、タキイ種苗
- 製造** | ヤマハ、リコー、アイリスオーヤマ、コーセイ、ツムラ
- 住宅・不動産** | 積水ハウス、旭化成ホームズ、住友林業、一条工務店、三井ホーム、タマホーム、大京穴吹不動産
- 金融** | 三菱UFJ信託銀行、イオン銀行、秋田銀行、千葉銀行、東京スター銀行、武蔵野銀行、長野銀行、大分銀行、埼玉縣信用金庫、松本信用金庫、JAバンク埼玉県信連、野村證券、SMBC日興証券、損害保険ジャパン、日本生命保険相互会社、第一生命保険
- 情報通信** | ビーエス朝日、NTTデータ・システム技術、マイナビ、DMM.com Group
- 航空・鉄道** | JAL、JR東日本、東急、ANAエアポートサービス
- サービス** | 日本郵便、日本旅行、ザ・キャピトルホテル東急、パソナ、ぐるなび、セコム
- 農業協同組合** | JA全中、JA全農、JA神奈川中央会、JAさいたま、JA千葉みらい、JA横浜など各地のJAへ多数
- 公務員** | 防衛省陸上自衛隊、岩手県庁、警視庁、各県警察本部、静岡市役所など各地の市役所・町役場へ多数
- 教育** | 東京農業大学、高知県立幡多農業高校
- 大学院進学** | 東京農業大学(院)、名古屋大(院)、筑波大(院)、一橋大(院)、金沢大(院)、上智大(院)



# 国際バイオビジネス学を探究する教育研究体制

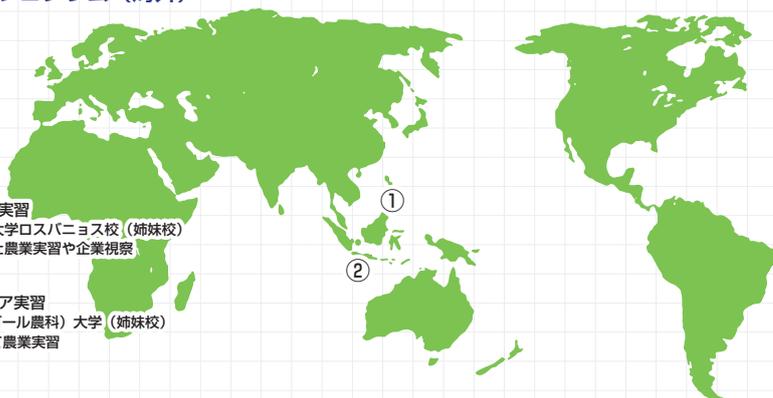
経営・情報分野			マーケティング戦略分野		学部共通・教養分野	
<b>経営組織研究室</b> 経営の持続的成長要因と農村ビジネスリーダーのあり方を探る  木原 高治 教授 鈴木 源太郎 教授 山田 崇裕 准教授	<b>経営管理研究室</b> バイオビジネスに必要な経営管理法を解明する  土田 志郎 教授 内山 智裕 教授 井形 雅代 准教授	<b>経営情報研究室</b> 情報技術を活用したビジネスモデルを考える  畑中 勝守 教授 下口 ニナ 准教授 カルラマダ 助教	<b>マーケティング研究室</b> バイオビジネスに必要な経営管理法を解明する  大江 靖雄 教授 半杭 真一 准教授 今井 麻子 助教	<b>経営戦略研究室</b> 農業・食品産業への経営戦略手法の適用方法を考える  渋谷 往男 教授 佐藤 和恵 教授 寺野 梨香 准教授	<b>情報処理教育学研究室</b> 医療分野と農業分野を中心に画像解析を応用した問題解決の技法について研究する  福岡 秀也 助教	<b>比較文化・言語研究室</b> 異なる言語における文法の共通性／相違点を分析し、自然言語の普遍的な性質を明らかにする  小林 亮一朗 助教

## バイオビジネス実地研修

バイオビジネスの実際的な知識を体得するために、2年次の必修科目として開講されており、2021年度は国内外12プログラムを実施しています。

### ●実地研修プログラム（海外）

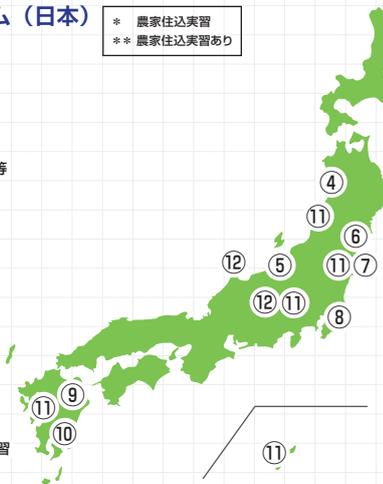
- ① フィリピン実習  
フィリピン大学ロスバニョス校（姉妹校）を拠点とした農業実習や企業視察
- ② インドネシア実習  
IPB（旧ボゴール農科）大学（姉妹校）を拠点として農業実習



### ●実地研修プログラム（日本）

- ③ 北海道農業実習\*  
オホーツク地区・岩見沢等における畑作農業の実習
- ④ 秋田農業実習\*\*  
大潟村における野菜・豆・花苗等の実習
- ⑤ 新潟農業実習\*\*  
妙高市における中山間地の野菜・米・特産品等の実習
- ⑥ 宮城農業実習\*  
角田市における米等の実習
- ⑦ 福島農業実習\*  
郡山市・伊達市等における施設野菜・畜産・キノコ等の実習
- ⑧ 千葉農業実習\*  
山武市・八街市・多古町等における野菜・水稲・果樹等の実習
- ⑨ 福岡・大分農業実習\*  
福岡県八女市・大分県竹田市における特産品生産・販売実習
- ⑩ 宮崎北きりしま農業実習\*  
小林市・えびの市・高原市における畜産・野菜・花き・畑作物等の実習
- ⑪ 醸造・食品産業実習  
（山形・福島・山梨・熊本・沖縄）  
全国の醸造・漬物会社における食品加工・出荷作業実習
- ⑫ 農企業実習  
長野県・石川県内農業法人における農作業・6次産業化実習

\* 農家住込実習  
\*\* 農家住込実習あり



〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1  
東京農業大学国際食料情報学部国際バイオビジネス学科



『農大ビジネス』  
で検索！

農大ビジネス

検索